

## インターバンクの声（2017年2月1日）

トランプ米大統領の入国管理強化による混乱を嫌気して円高・ドル安傾向になっていた円相場だったが、昨日のアジア時間では113円台での値動きに終始し、そろそろドルを買っても良さそうな雰囲気も漂い始めていた。しかし、ここで再び相場を動かしたのはトランプ米大統領のドル高けん制発言だった。

米製薬業界幹部との会合で他国が通貨安に依存していることに言及、中国と日本を名指した上に、特に「日本は何年もやってきたことだ」とまで述べたのだ。円相場は113円台前半から一気に112円台前半まで上昇してしまった。

昨夜は米国家通商会議(NTC)のピーター・ナバロ委員長が英紙フィナンシャル・タイムズのインタビューで「ドイツが大幅に過小評価されているユーロによって欧州連合(EU)と米国を食い物にしている」と述べたことも伝わっている。

いよいよ米新政権が中国、ドイツ、日本の為替政策に対して本格的に攻撃態勢に入り始めたのかも知れない。為替面での批判の矛先は中国が大本命のようだが、ドイツや日本へも批判を強めてくれば、短期的にはドルの上値は限られそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。